



Japanese Society  
of Oral Implantology

12 (Fri.) - 14 (Sun.)  
September 2014

Tokyo  
International  
Forum

日口腔インプラント誌

J. Jpn. Soc. Oral Implant.

<http://www.shika-implant.org/>

# 日本口腔 インプラント学会誌

Journal of Japanese Society of Oral Implantology

第44回  
公益社団法人 日本口腔インプラント学会  
学術大会

(第34回公益社団法人 日本口腔インプラント学会  
関東・甲信越支部学術大会併催)

第27巻 特別号

会 期：平成26年9月12日(金)-14日(日)

会 場：東京国際フォーラム

主 管：公益社団法人 日本口腔インプラント学会  
関東・甲信越支部

大 会 長：築瀬 武史  
(公益社団法人 日本口腔インプラント学会理事・  
関東・甲信越支部長)

vol. **27** Special Issue / 2014.9

公益社団法人 日本口腔インプラント学会

## O-2-7-11 上顎洞底挙上・即時インプラント埋入術の20例

○山内 大典, 渡辺 孝夫, 清水 治彦, 高橋 常男  
神奈川県立歯科大学 3次元画像解剖学講座

20 cases of implant placement simultaneously with a sinus elevation

○YAMAUCHI D, WATANABE T, SHIMIZU H, TAKAHASHI T

Department of 3D-Imaging Anatomy, Graduate School of Kanagawa Dental University

I 目的: 今回我々は, 上顎臼歯部歯槽骨高度吸収症例に補填材なしで, 上顎洞底挙上・即時埋入を行った20例を報告する。

II 症例の概要: 症例は, 男性7例, 女性13例, 総数20例, 全症例全身的に大きな問題はなかった。インプラントは合計32本植立した。年齢は21歳から68歳で平均 $58 \pm 5.4$ 歳であった。手術は2003年9月から2011年7月に行った。手術前の上顎臼歯部歯槽骨頂からサイナスまでの高さはCT画像のクロスセクショナル像より1.13 mmから7.13 mmで平均 $4.27 \pm 2.8$  mmであった。手術は, 全症例静脈内鎮静法を行い, 補填材なしで, 上顎洞内側壁に沿わせるようにインプラントを植立しカバースクリューを装着し, 縫合を行った。

III 経過: 全症例完全に2回法で行った。二次手術までの待機期間は平均 $6.1 \pm 1.2$  カ月(最少4月, 最大9カ月)であった。手術後から待機期間中までに上顎洞感染を疑う所見はなかった。二次手術時に, ペリオテストにてインプラントの動揺を計測した。ペリオテスト値は平均 $0.4 \pm 1.5$  (最少-2, 最大03)と良好であったため, 仮歯にて咬合負担を与えて経過観察を行い, その後, 最終補綴物を装着した。咬合荷重

を与えてからの観察期間は平均 $58 \pm 21$  カ月(最短39カ月, 最長89カ月)であった。全症例ともに現在まで良好に経過している。

IV 考察および結論: 上顎臼歯部歯槽骨高度吸収症例にインプラントを埋入する場合, 上顎洞底を行い挙上スペースに補填材を填塞することが一般的な手法となっている。しかし, 一旦感染すると補填材が感染源となり炎症を助長し, 遷延化するとリカバリーが困難になる。渡辺らは, イヌ前頭洞を使った実験で, 補填材を使用しなくても, 上顎洞底を挙上するだけで骨統合するという報告がある。今回の20例から, 上顎臼歯部歯槽骨高度吸収症例であっても上顎洞内側壁あるいは外側壁に沿わせるようにインプラントを埋入する術式を行い, 2回法で十分に免荷期間をあけてから咬合負担をかけることなどを考慮することにより, 十分に臨床応用可能と考えられた。